

発達 21 (360~367)

座長 内田伸子・福田 廣

360 初期言語行動の成立 (II)

お茶の水女子大学 内田伸子

361 初期言語行動の成立 (II)

お茶の水女子大学 秦野悦子

362 (発表取消)

363 幼児の誘惑に対する抵抗の性差と他の諸要因との関係

北海道大学 氏家達夫

364 幼児の自己意識の発達

——将来の発展と過去の変化についての意識——

筑波大学 都筑 学

365 (発表取消)

366 テレビ視聴における就学前児の性役割選択傾向

早稲田大学 小倉千加子

367 幼児の新環境適応に関する微視発生的研究

——幼稚園入園と転居による移行ケースについて——

山口大学 福田 廣

360 伊藤 (東北大) より「注意喚起」の定義, 伝達意図の有無の基準, 事物を指さない pointing の分類の仕方, 「表象体系」の定義等について質問された。無藤 (東大) より Z_2 の発話量の多い原因を問われ, 言語刺激量の多さと相まって身体活動の制限が発語器官の使用を高める事になったのではないかと回答した。伊藤, 山口 (白梅学園短大) らより指摘された言語と認知機能の関連について議論になり, OP テスト, DQ の発達程度と言語発達に対応がない事から両者の関連に簡単に結論が下せないと述べた。伊藤の両者の関連を現象的に綿密に調べてみるという提言に対し, 無藤より環境の様々な側面が発達の様々な側面に多様な影響を及ぼしうる事が示唆されたとして, 両機能間の関連を調べるだけでは不十分ではないかという提言がなされた。

361 新田 (東女大) より接触事物の分類の仕方について質問が出された。無藤より 1. 表 2 の % の母数, 2. 事物操作の発達の環境差の有無について問われ, 1. 母数は事物への接触総頻度, 2. 出現順序は一樣であるが環境差より個人差の方が大きい旨の回答がなされた。

363 無藤より, 男女としつけ型の組み合わせの分析, RTT_1 RTT_2 各々内で状況を 2 つとって課題内・間の相関を比較してはどうかという提言に対し, 今後検討するとの回答があった。小倉より RTT_1 の教示を変えれば

RTT_2 に変わるのではないか。 RTT_2 の課題が男性的なので仮説が検証できなかったのではないか等の指摘に, 今後性を統制できる方法を開発したい, と述べた。

364 塚野 (富山大) の面接法のメリットは何かの間に, 子どもの周囲の状況に関する資料も収集でき反応理由を把握しうる点をあげた。山口 (京大) の 1 結論の根拠は何か, 2 受容より拒否に自己意識がはっきり見られるのではないかという指摘に, 1. 6 才で過去・現在についての認識が成長し, 大人に自分達にない自由がある事がわかるようになる点をあげ, 2. 確かにそうである旨回答した。内田より死についての意識は身近の環境の影響を無視しえないのでそれらもあわせてデータに加えていってはどうかと指摘された。福田より兄弟関係の統制を行ったかの問に対し, 否との回答があった。伊藤より最近の自殺の低年齢化の現象は, 本報告をふまえるとどう考えたらよいか意見を求められた。

366 無藤より, 1. 幼児自身の自発的な番組選択と兄弟や親と一緒に視聴する場合とが混同されている。2. 高低知能間の視聴時間の差はそれほど大きいとは思われない。3. テレビ視聴と知能の高低のデータについて解釈しすぎである。4. 高学歴の親が女兒への圧力が弱いという推測も少し飛躍があるようだ。5. 性役割の学習という事なら M-H-F で分けるより目的と少しずれるかもしれないが, 具体的な番組の内容分析をやってはどうか等の提言がなされた。さらに 6. 男女別視聴データが必要か, 7. 幼児向け番組の定義, 8. 成人と幼児の性役割のズレとは何か, 9. ステレオタイプとは何を指すか等の質問に対し, 6. 成人の性役割観で分ける, 7. 製作者が就学前を対象に制作したもの, 8. M-H-F スケールの項目の出現頻度の極端な違いを指す, 9. 性役割タイプを指すと回答した。また M-H 型番組を女兒が好む点については時代性なのか, 年齢要因か今後検討していきたい, と述べた。

367 内田の, 遊びのタイプの分類は困難ではないかという指摘に, VTR によって 3 人で評定し, 一致しないもの (少数だったが) は話し合いで決めると答えた。氏家より, 1. 母親の当該幼児への関わり方の分析のない理由, 2. 幼稚園での適応過程を調べなかった理由を問われ, 1. 母親の関わりが少ない状況を選択してある為, 2. 協力が得られれば具体的適応場面を観察していきたいが今回は協力を得られなかった旨の回答がなされた。

(以上, 発表間の共通性が少なかったので討論は個々の発表毎になされ, その主なものをここに記した。)

(内田伸子・福田 廣)